



# 1995 - 2016 New Year Opera Concert

- 1996 ● 第1回 ~オペラの魅力~  
《椿姫》《フィガロの結婚》《蝶々夫人》
- 1997 ● 第2回 ~華やかな名歌の数々~  
《こうもり》《魔笛》《トスカ》
- 1998 ● 第3回 オペラ《おしち》  
オペラ名曲アリア集
- 1999 ● 第4回 オペラ《フィガロの結婚》
- 2000 ● 第5回 オペラ  
歌劇《水の声》
- 2001 ● 第6回 オペラ  
歌劇《水の声》《椿姫》ハイライト
- 2002 ● 第7回 オペラのまちの新春を祝う歌・唄・うた  
《フィガロの結婚》《カルメン》
- 2003 ● 第8回 《こうもり》《カルメン》ハイライト
- 2004 ● 第9回 《蝶々夫人》ハイライト  
オペラガラコンサート
- 2005 ● 第10回 ひたち市民オペラ 10年の精華  
《トゥーランドット》
- 2006 ● 第11回 ~オペラの黄金時代とその魅力~  
《ファウスト》《夢遊病の女》《こうもり》
- 2007 ● 第12回 ~オペラクライマックス!~  
《セビリアの理髪師》《カルメン》《ハンゼルとグレーテル》
- 2008 ● 第13回 ~ようこそ、華麗なオペラの世界へ~  
《ドン・ジョヴァンニ》《マクベス》《アイーダ》
- 2010 ● 第14回 ~愛のゆくえ...~  
《愛の妙薬》《トロヴァトーレ》《トゥーランドット》
- 2011 ● 第15回 ~言の葉と響き~  
《カルメン》《フィガロの結婚》《仮面舞踏会》
- 2012 ● 第16回 ~被災を乗り越え、愛を歌う~  
《マルタ》《フィガロの結婚》《魔笛》
- 2013 ● 第17回 ~輝くイタリア・オペラの系譜~  
《セビリアの理髪師》
- 2014 ● 第18回 ~こうもり男爵からの不思議な舞踏会への招待状~  
《ジプシー男爵》《微笑みの国》《チャールダッシュの女王》
- 2015 ● 第19回 ~ヴェルディに乾杯~  
《椿姫》《マクベス》
- 2017 ● 第20回 ~愛のメッセージは歌に乗せて~  
《アルジェのイタリア人》《ノルマ》  
《ドン・パスクアーレ》《電話》全1幕

※10回目以降は、ガラコンサートのため、主な代表作を紹介

新年の幕開けを祝い、ニューイヤーオペラコンサートが20年にわたり開催されてきました。今回、第20回の節目となるニューイヤーオペラコンサート開催にあたり、音楽監督・指揮を務める大浦智弘さん、長年このコンサートに出演されている地元日立市のメゾ・ソプラノ歌手大津香津子さん、演出を手がける前川久仁子さんからコメントをいただきました。



「愛のメッセージは歌に乗せて」 音楽監督・指揮 / 大浦智弘

オペラの母国イタリアは2016年に我が国との国交樹立150周年を迎えました。今回の「ニューイヤーオペラコンサート」、前半では《ベル・カント》と呼ばれるイタリア・オペラの輝かしい伝統を作り上げた3人の巨匠、ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニの作品をお届けいたします。また、2017年はイタリアで生まれ育ち、その後アメリカに渡って活躍したオペラ作曲家メノッティの没後10年にあたり、後半では、そのメノッティの代表作のひとつである1幕物のオペラ《電話》を上演いたします。イタリア・オペラ、オペラ・ファンはもちろん、「オペラは初めて」という方もお楽しみ頂ける盛りだくさんなプログラムをご期待ください！



「ニューイヤーコンサートとわたし」 メゾ・ソプラノ / 大津香津子

このたび、日立の「ニューイヤーオペラコンサート」が20回目を迎えます。「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」の皆様はもとより、関わってこられた方々の情熱を常々より間近にし、感慨深いものがあります。私が初めてニューイヤーオペラコンサートに出演させていただいたのは、第4回《フィガロの結婚》ケルビーノ役でした。ありがたいことにその後も様々な役を歌わせていただき、これまでの経験や素晴らしい音楽家たちとの出逢いは私の宝物となっています。《フィガロの結婚》では、演出家から「こんな男の子が私の子だったら…と、世の母親がみな羨むような美少年がケルビーノ！」などと、「プレッシャー」と言うジャブをちょこちょこ打たれたり、《水の声》老女役では、所作の先生に「老女？あら、お気の毒！」と笑われたり…。そしてガラでは、若くして星になってしまったテノール経種康彦さんがホールのP席で歌った「星はきらめき」が、それはそれは素晴らしくて忘れることができません。今でもその場所にスッと背を伸ばして立っている気がして目をやってしまうのです。さて、今回の私の役は聡明で勝気で魅力的なイタリア人の女性イザベッラ、もうひとつはズボン役ロメオです。ご存知ロミオとジュリエットのお話で、ジュリエッタとの2重唱です。若い二人の悲しい愛の結末を思うと胸が苦しくなるような2重唱です。いずれの歌も、20回という節目にふさわしいコンサートとなるよう心して向き合いたいと思います。たくさんのお客様楽しんでいただけることを心より願っております。



「オペラ《電話》の楽しみ」 演出 / 前川久仁子

メノッティ作曲オペラ《電話》が創られたのは1947年。戦後わずか2年足らずのアメリカ。戦勝国でありましたが、世事は混沌としていました。例えばニューメキシコ州ロズウェル付近で墜落したUFOが米軍によって回収されたと言う「ロズウェル事件」トルーマン大統領の共産主義脅威論によりソ連との「冷戦」が始まるなど、現実かロマンかの不確かな時代。同時に市民生活は「豊かさ」を目指し、大量生産が始まります。車、プラスチックのおもちゃ、レトルト製品、冷蔵庫に洗濯機、添加物満載のお菓子、忘れちゃいけないコカ・コーラ。主人公ルーシーが生きた時代は、パーマネントやマニキュア、女性たちは家事や子育ての時間を短縮し、どんどん綺麗になっていきます。忙しくなってきた彼女たちが始めたのは「電話をかけてお友達と話す」こと。電話を掛けるメリットは、わざわざ会って話す必要がないってことです。現代のSNSと同じですね。電話はツールとなりました。さて同じ時代、仕事をしている男たちはもっと時間がありません。今の世も、1940年代も、新しい時代はスピードが必要でした。ルーシーの恋人ベンにも列車の時間が迫っています。でもどうしても会って話したくて、彼はやって来ました。40年代から50年代への時代を進み始めているサラリーマンとしては、時間の無いのは当たり前。新しい時代は容赦ありません。でも一言だけ、列車に飛び乗る前に一言だけ、どうしても直接伝えたいことがある。どの時代も唯一不変の言葉。メノッティはこのオペラをラジオ・オペラとして作曲しました。ここにもまた新しい時代のツールが登場します。舞台では無く、女性たちが家事の手を止めて、或いは家族団らの時間に耳で聴いて楽しむためのもの。大切な一言を、ベンはルーシーにどうやって伝えるのでしょうか？実はこのオペラのお楽しみは、唯一「そこ！」なのです。

## オペラ《電話》のあらすじ

ルーシーのアパートに恋人のベンが訪れ、プレゼントの箱を渡す。ベンは、旅行があるのでルーシーのところにいられるのは1時間だけだが、出かける前にどうしてもルーシーに話したいことがあるという。ベンが話の前置きをしていると、電話がなる。ルーシーの女友達からである。彼女は楽しそうに電話をしている。ようやく長電話が終わって、ベンが話を戻そうとすると、また電話がなる。間違い電話だった。もう時間がない、とベンが言うと、電話で今の正確な時刻を確認するルーシー。ベンはふてくされてお礼をいう。そこでまた電話がなる。ルーシーの男友達が、怒って電話をかけてくる。どうやら電話で口論になっているらしい。この友達と和解できずに電話が切れる。ルーシーは泣きながら隣の部屋に入る。一人残されたベンは急いでいるときに自分の気持ちを話せないのは電話のせい、ということで、だんだん電話が憎くなってきて、ポケットからナイフを取り出して電話線を切ってしまうが、戻ってきたルーシーがそれを止める。ベンは早く自分の話を聞いて欲しい、というが、ルーシーはどうしてもその前に電話したいことがあるとあって、電話をかける。先ほどの口論の報告と言訳である。この電話も長い。ベンは時間が迫っているからもうここで話すのは無理だとあきらめ、荷物を持って出て行く。電話が終わり、ベンが帰ったことに気づいたルーシーは残念がる。すると、また電話が鳴る。ベンが飛行機に乗る前に、外の公衆電話からかけているのだった。彼の率直な「結婚してほしい」というプロポーズにルーシーは「もちろんよ」と答える。そしてルーシーが「旅行中は、毎日私に電話をしてね。私の電話番号を忘れないでね！」とベンに念を押すと、二人は声を揃えてルーシーの電話番号を確認し合った。

## 第20回ニューイヤーオペラコンサート

～愛のメッセージは歌に乗せて～

- 【目 時】 2017年1月15日(日) 開演14:00(開場13:00) 【出演】
- ※公演前に1階アトリウムにてウェルカム演奏がございます。
- 【会 場】 日立シビックセンター音楽ホール 音楽監督・指揮：大浦智弘
- 【料 金】 全席指定一般2,000円、高校生以下1,000円 ソプラノ：西本真子、宍戸茉莉衣
- 日立シビックセンターほかプレイガイドにて発売中！ メゾ・ソプラノ：大津香津子
- 【曲 目】 《アルジェのイタリア人》より「惨い運命」 テノール：相山潤平
- 《愛の妙薬》より「人知れぬ涙」 バリトン：大島嘉仁
- 《ドン・パスクアーレ》より「あの騎士の眼差しは」 合唱：ひたちオペラ合唱団
- 《ノルマ》より「清らかな女神よ」 アンサンブル：ニューイヤーオペリアンサンブル
- 《清教徒》より「永遠にあなたを失って」
- オペラ《電話》全1幕(演出：前川久仁子)、他

良い席は、お早めにお求めください！